

# Gikai

第129号

2026年2月10日

発行

# Kamifurano

## かみふらの 議会だより

P.2~3 議会懇談会報告

町の鳥獣被害対策は十分か!?  
猟友会の思いを聞く

P.4~5 決算特別委員会

R6 年度、町のお金の使い方を  
議員が厳しくチェック!

P.6 定例会・臨時会

プレミアム付き商品券発行 など

P.7 議員派遣報告 ~先進地から学べ~

- ・議会のタブレット導入
- ・より良い議会広報誌づくり

P.8~17 一般質問

ヒグマへの対策は?  
どうなる駅の無人化 など

P.18 表紙写真インタビュー

フォトグラファー  
安彦 嘉浩氏

今号の表紙写真

町内フォトグラファー

安彦 嘉浩さんの写真

世界が気づいたカミフの魅力!  
これからの課題は?



より開かれた議会となるよう、テーマを決めて話し合う「議会懇談会」。

町民の意見ひとつひとつから上富良野町の課題を浮き彫りにし、議会として政策立案、行政に提言できるような皆さんの生の声を聞かせていただく大切な場です。

今回は12名の「猟友会」の皆さんと「鳥獣被害対策・これからの部会活動・町づくり」をテーマに話し合いを行いました。

## 議会懇談会はどうでしたか？ ～参加者の声～



すがわら かずあき  
菅原 和晃さん

昨今は、特にニュースでクマの被害等が報道されることが多かったと思います。上富良野においても駆除活動で食い止めているということも理解が深まりました。また、少子化などもあり、人の確保も今後難しくなると思います。自然環境を整備し、鳥獣が町に降りてこないようにすることや、ハンターの育成に関わる事業なども考えていただけたらと思います。R7年度猟友会に入会したばかりで知識、経験も浅いですが今後も勉強し、有害駆除活動で地域に貢献していけるように頑張りたいです。



すがわら としひこ  
菅原 俊彦さん

上富良野町で、初めて議会と猟友会の話し合いでした。昨今、全国的に騒がれているクマの問題に留まらず、鳥獣による被害全般へ対策を考える第一歩になったと思います。そもそも猟友会は、市民を守るために出動する義務はなく、基本、ボランティアで出動しています。しかし、ハンターの減少や諸々使用する物資の高騰などにより、これまでの踏襲されてきた協力体制の維持が困難になってきています。この懇談会が、行政がより強力に、現場に対応できるようになるきっかけとなることを願います。



ささき しんじ  
佐々木 信治さん

議員の皆様と貴重な経験が出来ました。会員一人一人から町づくりへの考え、要望等を発信することができました。R7は道内を含め、本州でもクマによる人身事故が多発しました。クマ、シカ、アライグマによる農作物被害も多発しています。そのような事情で会員からも町内の東側と西側で箱わなの増設によりクマの市街地侵入防止を図ることや、ガバメントハンターの育成、高齢化、後継者不足等々今後の課題、要望の機会でもあり意義ある懇談会でした。猟友会の活動として会員仲間の皆さんは、有害鳥獣駆除に年間を通して朝、夕方と時間を作りながら活動しています。R7も町内でクマ出没情報が何回も放送されました。春、秋の山菜採りには鈴、笛、携帯電話などを準備して山林に入りましょう。



猟友会上富良野部会  
のりとう よしき  
事務局長 則藤 悦基さん

猟友会上富良野部会は、有害鳥獣駆除を通じて地域農業や人々の安全に直接貢献しています。駆除1頭あたり数千円～数万円程度の報酬が支給されていますが、大きな金銭的な負担がかかっている現状で、ボランティアに近い形で出動するハンターも多く、時には行政との認識のズレを感じています。多くのハンターが「報酬ではなく、地域のため」という認識で活動しているのが実情です。現場では、銃刀法や安全基準を厳守しつつも、時にはトラブルに巻き込まれることもあります。例えば、北海道のある町では行政側とのコミュニケーション不全から出動拒否に至ったケースもありました。現場の安全確保や役割分担の難しさが浮き彫りになっています。発砲後に安全確保に不備があるとして警察が問題視すれば猟銃を取り上げられてしまうことになります。長い時間とお金をかけて免許を維持してきたのに、皆のためだと出動した駆除で資格が失われる可能性があります。猟友会の活動は、地域社会の安全を守るために重要な役割を果たしています。特にクマのような大型動物の捕獲は、非常に高いリスクを伴う作業であり、その報酬額の増額が求められる理由も理解できます。地域住民の正しい理解により、猟友会の活動はより効果的に行われ、地域住民の安全につながると思います。

## 他にはこんな声がありました

●道内外限らずクマ被害の報道が増えている中での懇談会だと思えますが、定められた時間では伝わらないことが多いと思えました。それだけ、町から委嘱されている部会員が時間、費用を割いて身の危険と安全に配慮しながら活動しているからだと思えます。

●以前から鳥獣による農作物の被害は多くありますが、現状をあまり知らない方が多いと思えます。その中で今回のように実際に有害鳥獣対策に関わっている猟友会部会員、実害にあっている農家の話を少しでも知ってもらえる機会になればいいなと思えました。

●議会議員の方々からの意見や、質問の時間がなく閉会されたことが残念でした。もし、このテーマで次回も懇談会が行われるのでしたら意見のやり取りができる懇談会にさせていただきたいと思えます。



議会懇談会の様子

## 皆さんの声を意見書として町に届けました

- (1) ヒグマ対策として「箱わな」は有効であり、各地域に配置できるよう個数を増やしていただきたい。
- (2) 鳥獣出没の見回りや、射撃練習に対する助成を考えていただきたい。
- (3) アライグマ駆除に必要な捕獲用機材の整備を進めていただきたい。
- (4) 鳥獣対策に必要な経費等の対応を図っていただきたい。



全文はこちらから

## あなたの声を直接議会に届けませんか？

町内の方で5人以上のグループであれば、どなたでも議会懇談会の開催を申し込むことができます。議会に直接生の声を伝えることで、あなたの課題が町の課題として扱われるきっかけにもなります。

### 申し込み方法

申込書を議会事務局までご提出ください。  
詳細はこちらから [👉](#)



上富良野町議会事務局

☎ 45 - 6992 FAX 45 - 5362

# 令和6年度決算

## 114億円に対する

# 注目の質疑

令和6年度では、町のお金がどのように使われ、どのような成果を上げたのか。3日間に及ぶ決算特別委員会の中で議員があらゆる事業に対して厳しくチェックしました。

### 地域活性化起業人ってどんな仕事をしたの？

Q 地域活性化起業人は年間どの程度町に滞在し、どのような役割を担っていたのか。  
A 月平均5〜7日程度町内で活動し、観光振興を中心に、ラベンダー活用や特別体験事業、泥流地帯映画化など複数事業の企画・調整を担った。

Q 3年間の任期を通じ、具体的な成果は何か。  
A 香りを軸とした商品開発や観光庁事業の誘致、秋冬観光コンテンツ造成など、今後展開可能な基盤づくりに寄与した。

Q 町の顔となる「キラークンテンツ」創出には至らなかったのでは。  
A 単年度で完成するものではないが、種まぎと実証を行い、今後町が引き継ぎ発展させる段階にあると評価している。

### 泥流地帯映画化の現在地は？

Q 起業人の人脈やネットワークは町に残っているのか。  
A 観光事業者や外部企業との関係は継続しており、今後の事業展開に活用できると認識している。

Q 泥流地帯を映画化する目的は何か。  
A 十勝岳噴火という町の歴史の出来事を物語として発信し、記憶の継承と町の認知度向上を図ることを目的としている。

Q 映画化は観光振興や地域活性化にどのようにつながると考えているか。  
A 直接的な集客効果だけでなく、町の背景やストーリーを知ってもらうことで、来訪動機の創出につなげたい。

Q 地域活性化起業人は本事業にどう関わったのか。  
A 企画段階から参画し、関係者調整や情報発信の助言を行うなど、事業推進の側面支援を担った。  
Q 映画化が一過性の話題で終わる懸念はないか。  
A その点は課題と認識しており、教育活用や観光コンテンツとの連動など、継続的な展開を検討している。

### 教育現場のICT化は進んだ？

Q 以前は授業中にタブレットの通信が悪く、授業が止まってしまっている場面を目にしたが。  
A 令和6年度にそれぞれの学校のプロバイダーを変更したが、調査を行った結果をもとに、現在改善策を検討している。

Q ICT推進協議会では、どのような課題や要望が話し合われたか。  
A 通信速度に関するもののほか、タブレットの基本ソフトウェア（OS）を変更する検討が行われ、令和7年度に変更することとなった。

私は上富良野を中心に、包括的性教育の実践と性に関する課題への取り組みの1つとして「ルナラウンジ」を開催しています。各校で魅力的な性教育の取り組み、学びはあると思いますが、人権教育でもある【包括的性教育】に町として着手し、どの子にも行き届くことを期待しています。



「せいラボ」  
代表 北村 真貴子さん

### インバウンドは進んだ？

Q 特別体験によるインバウンド消費拡大・質向上推進事業4千500万円の事業内容は。  
A 全額国費で、特にインバウンドに着眼した新しい上富良野町内の、特に冬の観光コンテンツの開拓、開発、商品化といったところの研究を目的とした事業。主に台湾からの観光を意識した仕掛けで、冬の日の出公園の展望台の開放や、雪上自転車体験などを試験的に行った。また「上富良野の歩き方」というパンフレットも日・英中の言語で作成した。



冬の上富良野を楽しむイギリス人カップル

- Q 特別体験によるインバウンド消費拡大・質向上推進事業の成果は。
- A 即時の商品化には至っていないが、外国人ニーズの把握や体験造成のノウハウを得る実証事業として一定の成果があった。
- Q 約4千500万円の国費を投じた事業として、費用対効果は十分か。
- A 短期的な売上効果は限定的だが、将来の観光商品化につながる基盤整備と位置づけている。
- Q 観光客も増えているが、交通安全対策について、令和6年はどのような対策を行ったのか。
- A 補助看板の設置や、警察との現場の検証、道路管理者との協議などの調整を図った。

## 道路の損傷を何とかして！

定年退職後 42 年ぶりに上富良野に戻ってきました。どの町も同じですが、人口減少で町並が淋しく感じます。でも十勝岳を望む景観は変わらない魅力です。道路の舗装の劣化が激しいです。なんとか駐屯地規模拡大で町を盛上げてほしいです。

まちの声



わたなべ こうじ  
渡辺 孝次さん

- Q 町内で路面の損傷が増えている要因は何か。
- A 凍結と融解の繰り返しによる舗装の劣化や、大型車両の通行増加、経年劣化が主な要因である。
- Q 損傷箇所の補修はどのような基準で判断しているのか。
- A 通行の危険性や交通量、生活道路か幹線道路かを考慮し、優先度を付けて順次対応している。
- Q 町民からの通報はどのように活用されているのか。
- A 通報内容をもとに現地確認を行い、補修の優先順位決定や維持管理計画に反映している。
- Q 今後の路面維持管理の方針は。
- A 損傷が深刻化する前の予防的補修を重視し、安全確保と修繕費抑制の両立を図っていく考えである。



意見書の提出



📄 全文はこちらから

## 提出された意見書

### 一般会計

(歳出)

- 1 地域活性化起業人の任用について
- 2 泥流地帯映画化について
- 3 「かみふらの産業賑わい協議会」及び「泥流地帯映画化を進める会」について
- 4 国からの委託事業である「特別体験によるインバウンド消費拡大・質向上推進事業」について
- 5 公共施設の改修整備等について

質疑の中で出された指摘・要望事項を取りまとめ、町長に対し、来年度の予算編成と町政運営に反映するよう求めました。

# 定例会

## 補正 予算 (主なもの)

- 泉栄防災センター・東明会館にエアコン設置・・・**357**万円
- 交通安全教室用信号機購入・・・**124**万円
- プレハブ冷蔵庫設置 (まるごとかみふらのピール保管用)・・・**373**万円
- 大雨被害による道路補修維持費・・・**7,700**万円
- 人事院勧告による職員給与費・・・**2,933**万円

## 条例の一部改正

- 現在の企画商工観光課を「企画政策課」と「商工観光課」に分離する条例の一部改正が提案され、賛成多数で可決されました。



## 議会 Pickup

12月定例会が12月17日、18日に開会しました。補正予算、条例の一部改正、令和6年度歳入歳出決算の認定などについて審議され、すべて原案のとおり可決されました。また、定例会では9名の議員が一般質問を行い19項目にわたって議論が交わされました。

# 臨時会

補正予算、条例の一部改正について審議され、賛成多数で可決されました。

第6回 (10月21日)

## 補正 予算 (主なもの)

- 高齢者等の冬季生活支援及びプレミアム付き商品券発行・・・**2,219**万円

第7回 (11月28日)

## 条例の一部改正

- 人事院勧告に従い、職員及び特別職の給与が改定されました。

第8回 (1月13日)

## 条例の一部改正

- 特別職報酬審議会の答申を受けて、町長、副町長、教育長、議員の給与がR8年4月1日から改定されます。

## まちの声

プレミアム商品券の発行は大変ありがたいです。使われるお店と使われないお店で差が出ているという意見もありますが、使われる側としては、商品券をご利用頂いたお客様に何か特典を付けるなど、使ってもらうための工夫をそれぞれが考えていくことも必要なのではないかと思います。また、紙ではなく違う形での発行や、飲食店のみで使えるプレミアム商品券など、今後のやり方を考える時期にきているのではと思います。

ダイニング ケイブ  
Dining cave  
だいどう ゆうき  
大道 祐樹さん

## 議会活動報告

# 先進地から学べ！

～視察研修～

11月4日・5日

議会運営委員会

### タブレットを導入してペーパーレスへ

留萌市議会では、平成10年以降「できることから実行する」を合言葉に、定数削減や一問一答方式の導入など、段階的に議会改革を進められていた。ICT活用では、3年にわたる調査を経て、コスト削減や事務効率化の効果を数値で具体化することでタブレット導入を実現し、その影響は行政側にも波及し、会議のペーパーレス化が浸透されていた。広聴活動では、意見交換会に加え「かわら版」による積極的な情報発信が特徴的で、一方、今年度開始の議会モニター制度は、応募不足という課題に直面していた。

下川町議会では、議会基本条例の制定を通じて議会の主体性と独立性を強化しており、重要計画の議決事項化や文書質問の導入、外部有識者による「議会諮問会議」の新設、定数・報酬の議会発議への変更など、踏み込んだ改革が特徴的であった。広聴活動では、男女・年代のバランスが取れた議会モニター制度

が定着しており、議員を輩出する土壌にもなっていた。特に、高校生モニター制度は、議員のサポートを受けながら生徒が議場で直接一般質問を行う形式に進化し、予算化に至る政策提案も生まれていた。

また、住民との意見交換会でのテーマをフリーにするなど、対話の活性化にも注力していた。



留萌市議会にて



報告書はこちらから

11月17日・18日

議会広報特別委員会

### 手に取ってもらう広報誌づくりに向けて

遠軽町議会では、事務局主導だった議会だよりを刷新し、議員自らが取材や特集記事作成を担う体制へと見直しを行い、記事への議員名表記による「活動の見える化」や、2色刷りでも見やすい5段階の濃淡表現、公式LINEの活用など、先進地の事例を積極的に導入。その結果、令和7年度の広報コンクールでは、表彰されるまでに至っていた。

表彰後も現状に満足せず、他町の事例を参考に随時リニューアルを継続し、現在は広報機能の強化に加え、新たに広聴機能を備えた委員会構成へと発展させており、町民がより議会に関心を持てるような、委員会活動の展開が期待されていた。

訓子府町議会では、中学生でも読める議会広報誌になることに努め文字数を減らし、イラストや写真を多く取り入れ、委員会内で構成した「サポート部会」を中心にリニューアルを図り、令和3年には全国広報コンクールで表彰されるまでになった。刷新された議会だよりをベースに、更に議会モニターからの議会広報に関する意見を集め、広報特別委員会内での編集体制の見直し、議会だより作成委託先との打ち合わせに、これまで参加していなかった委員長及び副委員長の参加など、さらなる議会だよりの充実が図られていた。



遠軽町議会にて



報告書はこちらから

# 上富良野のここが聞きたい!!

## 町民の思いを届ける 60 分



<p>⑥  ① 上富良野駅営業体制見直しについて ② 免許証の返納対応について ③ クマ対策について ④ 学校給食センターについて ⑤ 学校給食について</p> <p><b>米澤 義英 議員</b></p>	<p>①  ① 十勝岳の防災対策について ② ジオパークの今後について</p> <p><b>湯川 千悦子 議員</b></p>
<p>⑦  ① 行政の DX 化について ② 部活動の地域展開について ③ 上富良野高校の支援策について</p> <p><b>荒生 博一 議員</b></p>	<p>②  ① SNS を利用した効果的な情報発信について</p> <p><b>井村 悦丈 議員</b></p>
<p>⑧  ① 農業の担い手について</p> <p><b>小林 啓太 議員</b></p>	<p>③  ① 財政の持続可能性と将来への責任について ② 上富良野駅の無人化について</p> <p><b>林 敬永 議員</b></p>
<p>⑨  ① 民泊の急増及び外資系による空き家取得の増加に伴う、住環境・安全・景観への影響と町の対応について</p> <p><b>茶谷 朋弘 議員</b></p>	<p>④  ① 町道の舗装改修工事を行わないか ② 近年増加するヒグマ被害への対策は</p> <p><b>金子 益三 議員</b></p>
<p> ひとくちメモ</p> <p>・一般質問のページは質問議員本人により編集されています。</p>	<p>⑤  ① クマ・シカ被害対策の強化について ② 十勝岳噴火泥流災害から100年を迎えるにあたり</p> <p><b>佐藤 大輔 議員</b></p>

議会を傍聴してみませんか？

12月定例会の傍聴者は11人

YouTube はじめました /

次の定例会の開会予定は… **3月3日(火)～6日(金)、17日(火)です**

※この日程は変更になる場合がありますので、ご確認のうえ、役場3階の議場までお越しください。



1日目  
①～⑥

2日目  
⑦～⑨

防災

十勝岳の防災対策は

町長 - より実効性のある防災体制の構築を目指す

湯川議員

住民基本台帳

やそのほか関係するデータのバックアップ対策はどうなっているのか。今後の新たな対策は考えているのか。

斉藤町長

ガバメントクラウド基盤での運用を継続している。今後は災害時に強い運用を継続していく。

湯川議員

上富良野町災害時応援協定締結事業者

一貫では広範囲に及び関係機関との協定締結が行われ、町民として安心するところだが、実際に大規模災害時救援物資の仕切りや災害ボランティアの受け皿のシミュレーションは行っているのか。

斉藤町長

大規模災害発生時のシミュレーション

は、協定に基づき供給業務を一元的に担当する組織の確立を重視し対応方針を定める受援計画の策定を進めている。

湯川議員

十勝岳噴火総合防災訓練を行っている

が、災害時応援協定締結している民間の事業所との訓練は、今後どのような訓練を実施していく。

斉藤町長

具体的には町内企業と締結した協定に基づき、物資の供給体制の確認、あるいは被災者の一時収容施設の確保・提供といった、より実践的な連携訓練を実施していく。



冬の美しい十勝岳…どうか美しいままで

ジオパークの今後は？

湯川議員

今後もジオパークの取り組みが広がっていくことが期待されるが、今後の広報などの方策はどのように考えているか。

斉藤町長

イベントや講演会の開催など、より多くの人が参加できる機会をつくっていく。

湯川議員

今後のジオパークに関わる教育の取り組みはどのように考えているか。

斉藤町長

全ての小学校で早い時期からジオパーク教育が取り入れられている。

湯川議員

もちろん大事だが、もっと情操教育と

いうか、心の教育、例えば



上富良野町・美瑛町で開催されたジオパーク全国大会

つぶやき…

十勝岳の噴火には、備えあれば憂いなしです。是非ご家庭の防災グッズを今一度ご確認を！



湯川 千悦子 議員

ひとくちメモ

ガバメントクラウドとは、政府機関のシステムを共通化し、セキュリティ強化、コスト削減、業務効率化を目指す政府共通のクラウド基盤です。デジタル庁が整備を進めており、2025年度末までに移行することを目指している。

配信

# LINE 公式アカウントでの情報配信はしないのか

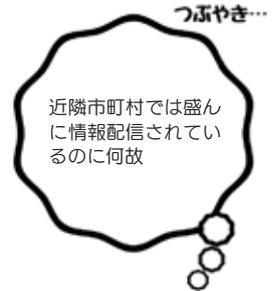
## 町長 – 内部で引き続き検討している

また、自治体・団体・サークル等でLINE公式アカウントが広く利用されている。行政施策や社会福祉に関する情報、地域のイベントや防災・災害情報などを町民にタイムリーに伝えることが求

められている。スマートフォンが普及した今では、コミュニケーションツールとしてアプリが数多くある。総務省の通信利用動向調査によれば、スマートフォン

の世帯保有率割合は90.5%で、個人の保有割合は増加傾向にあり8割を超え、LINEの利用率は、94.9%へと増加し、高齢者層でも60代の利用率が91.1%へと増加している。様々な企業、店舗が

集客や顧客対応として、



配信がない公式アプリ

められている。スマートフォンが普及した今では、コミュニケーションツールとしてアプリが数多くある。総務省の通信利用動向調査によれば、スマートフォン

の世帯保有率割合は90.5%で、個人の保有割合は増加傾向にあり8割を超え、LINEの利用率は、94.9%へと増加し、高齢者層でも60代の利用率が91.1%へと増加している。様々な企業、店舗が



井村 悦丈 議員

また、自治体・団体・サークル等でLINE公式アカウントが広く利用されている。行政施策や社会福祉に関する情報、地域のイベントや防災・災害情報などを町民にタイムリーに伝えることが求

められている。スマートフォンが普及した今では、コミュニケーションツールとしてアプリが数多くある。総務省の通信利用動向調査によれば、スマートフォン

の世帯保有率割合は90.5%で、個人の保有割合は増加傾向にあり8割を超え、LINEの利用率は、94.9%へと増加し、高齢者層でも60代の利用率が91.1%へと増加している。様々な企業、店舗が

集客や顧客対応として、

ひとくちメモ

情報の受取り・配信方法にはプル型とプッシュ型がある。プル型は自分から必要な情報を探しに行く方法で、インターネット検索などが例。プッシュ型は他者から情報が送られてくる方法で、LINEのメッセージやメール、ニュースレターなどが該当する。

また、自治体・団体・サークル等でLINE公式アカウントが広く利用されている。行政施策や社会福祉に関する情報、地域のイベントや防災・災害情報などを町民にタイムリーに伝えることが求

められている。スマートフォンが普及した今では、コミュニケーションツールとしてアプリが数多くある。総務省の通信利用動向調査によれば、スマートフォン

の世帯保有率割合は90.5%で、個人の保有割合は増加傾向にあり8割を超え、LINEの利用率は、94.9%へと増加し、高齢者層でも60代の利用率が91.1%へと増加している。様々な企業、店舗が

集客や顧客対応として、



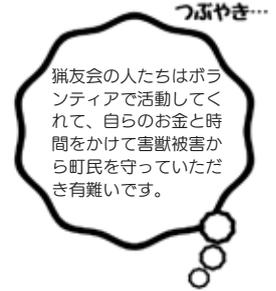
害獣

# 増加するヒグマ被害へ来期の対策は

## 町長－猟友会と十分協議しながら進める

**山内農業振興課長** せっかく訓練をやるので、講師を呼ぼうと考えている。町単独でやるのではなく、隣の中富良野にも相談し、

**齊藤町長** 春季の降雪期や残雪期で長時間雪山に入る狩猟であること、ヒグマの生息域が分かりにくい等の課題があり、仕事を待つ方が多いことから、人材育成の目的で訓練や講習を行うよう関係者と協議を進めていく。



増設が望まれる箱わな

**金子議員** 緊急銃猟の許可が行える法律改正が行われ各地でヒグマの駆除がなされている。北海道が定めた「人里出没抑制等」のための春季管理捕獲の実施要領に基づいて来年度の実施計画の予定は。

互いの猟友会と時間の合うときにやろうというお声がけをしようと思っ

**金子議員** 命をかけてヒグマの駆除に関わる猟友会への報酬等について改定する考えがあるのか、その他処遇についても併せて伺う。



金子 益三 議員



**金子議員** 大型の害獣を駆除した後に、解体と処

**齊藤町長** 現状、猟友会

**金子議員** 町として猟友会の人を中心とし、専門性を持たせるような配置というのを持つ必要がないか。予算についても、国も道も補正予算をつけている。クマ対策に対して人の確保、処遇、身分の保障が必要ではないか。

**齊藤町長** 今までお世話になった猟友会の方と十分協議をしながら進めていかなければならない。勝手にガバメントハンターをということとは難しい。

**金子議員** 大型の害獣を駆除した後に、解体と処

**齊藤町長** 箱わなについても計画的に、一度に増やせればいいが、ハンターの作業の軽減、住民の安全も含めて検討していかなければならないと思

ひとくちメモ

緊急銃猟とは、改正鳥獣保護管理法によって新たに設けられクマなどが人の生活圏に出没し、人命への危害を防止するため緊急に対応が必要な場合に、市町村長の判断で銃器による捕獲を可能とする制度です。

防災

# 100年という節目をどう迎えるか

## 町長 - 歴史に学び未来へつなげる年に

佐藤議員

大正 15

(1926)年の十勝岳

噴火に伴う泥流災害から

令和8(2026)年で

100年の節目を迎える。こ

の災害では多くの尊い命

と財産が失われ、町の歴

史と防災の礎を築く契機

となった。この100年を単

なる節目とするのではな

く、先人の教訓を次代に

継承し、町のシンボルで

ある雄峰十勝岳から多く

を学び、町民の防災意識

を高めることが極めて重

要であると考ええる。

十勝岳噴火泥流災害100

年にあたり、町として追

悼行事等の実施を検討し

ているのか。

佐藤町長 追悼式をはじめ

めとする関連事業の実施

を検討している。単なる

つぶやき…

100年の節目を重要視する町民から「具体的な姿が見えない」と心配の声が寄せられていたが、ひとまず安心…かな？



佐藤 大輔 議員



災害の記憶を風化させない取り組みとして町民が開いている展示会

過去の振り返りに留まら

ず、犠牲者の追悼は勿論、

災害の記憶を後世に継承

し、未来の防災につなげ

る事業として計画を進め

ている。国や北海道に対

しても、追悼式をはじめ

とする関連事業への協力

や後援を要請する予定で

ある。

佐藤議員 災害の教訓を

町民に継承するための防

災教育・啓発活動など

「100年の節目」を踏まえ

た特別な取組を検討して

いるのか。

佐藤町長 「泥流地帯」

の映画化プロジェクト、

朗読会や紙芝居イベント、

その他にも災害の恐ろし

さと復興の歴史を学べる

特別展や講演会の開催、

災害の記録や先人たちの

歴史をまとめた回顧誌改

訂版の発刊などの取り組

みを通じて、防災意識の

向上と次世代への確実な

教訓の継承を目指したい。

佐藤議員 100年という節

目を契機として、インフ

ラ整備、避難体制、地域

コミュニケーションの連携、

観光、地域振興など、今

後のまちづくりの展望を

どのように描いているか。

佐藤町長 災害に強い持

続可能なまちづくりを進

めるために、砂防堰堤な

どのハード対策を計画的

に実施するよう引き続き

国や道に要請していく。

また、避難路の確保や情

報通信網の強化に努める。

ソフト面では実践的な避

難訓練を実施し、自主防

災組織と連携した災害時

要支援者の支援体制の充

実を図る。

佐藤議員 わが町にとつ

て特別な年となる令和8

年は、先人たちの思いを

胸に、更に飛躍する年に

なることを切に願うが。

佐藤町長 活火山である

以上、また同じようなこ

とが起こるかもしれない。

100年を機に、上富良野は

2度の開拓があつて今が

あるという歴史を学び、

先人の苦勞に思いを致し、

未来につなげていければ

と思う。2026年を新

たな一歩にしたい。

ひとくちメモ

1926年9月8日にも十勝岳は小噴火を起し、2名が行方不明となりました。その後も火山活動は続き、一連の活動が終息を迎えたのは、2年半後の1928年12月4日の小噴火後です。

学校  
給食

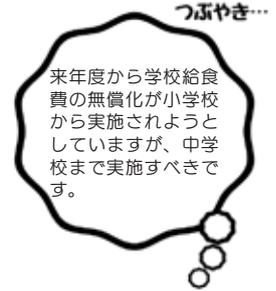
# 学校給食の無償化を

教育長－国の概要が明らかになり次第検討・協議したい

**米澤議員** 学校給食は、児童生徒の健全な成長に欠かせないものとして位置づけられている。国は、来年度から小学校の学校給食の無償化を実施するとしている。無償化が実現すれば、子どもたちの食育推進からも良いことであり、保護者の負担軽減にもつながると考える。

町は、小中学校の給食費の無償化の位置づけをどのようにされるのか。

**鈴木教育長** 学校給食は、児童生徒の心身の健全な発達と健康増進に資するものであると認識している。現在、給食費については一食あたり、小学校児童食316円、中学校生徒食376円を保護者の皆様に負担をいただいております。



米澤 義英 議員



子どもたちに提供されている学校給食

価格高騰により不足する費用については、全額町費から補填している。国においては、令和8年度から公立小学校の給食費無償化が検討されていると報道されているが、現段階では制度内容等について具体的に示されて

いないことから、令和8年度予算編成においては、同額の給食費の負担をい

ただくこととしているが、国の制度概要が明らかに

なり次第、必要な対応について、検討・協議を進めたい。

**非対応の給食費の免除を**

**米澤議員** アレルギ-

ある児童生徒に対して、給食の提供は注意を払うことが求められている。現在の給食センターでは、アレルギ-体質に対応し

かれていない状況にある。アレルギ-に対応した給食が対象者に提供されていないのであれば、給食費の免除が必要では。

**鈴木教育長** アレルギ-食への対応については、現在の給食センターは、建設後45年経過しており、設備や衛生管理の面から、アレルギ-源を完全に除去、隔離した調理を行うことは困難であるが、児童生徒の安全を第一に考

え、給食だよりに法で表



上富良野町教育振興計画では、安全・安心な学校給食の充実と推進が掲げられています。

示義務のある特定原材料品目等について情報を掲載し、家庭においてアレルギ-等に応じた判断をいただけるよう、注意喚起に努めている。

給食提供においては、配慮が必要な児童生徒を把握し、可能な限り代替品を提供し、重度の食物等アレルギ-により学校給食の提供を受けず、毎日お弁当を持参される場合は、給食費の徴収を行っていないが、一部のメニューのみが食べられない場合は、給食費を徴収させている。



食物アレルギー

部活動

上中部活動の現状の主な課題は

教育長 – 組織運営体制の構築、指導者の確保

荒生議員

部活動の地域

展開における課題は、指導者の確保、施設や費用の問題、生徒の送迎負担、そして地域間の格差などが挙げられるが、上富良野中学校の現状の主な課題は。

鈴木教育長

上富良野中

学校の部活動地域展開における課題として、組織運営体制の構築、指導者の確保、生徒や保護者への説明など様々な観点からの課題が挙げられるが、部活動指導に対して支援・協力していただける教職員が、地域の指導者として参加していただくことも検討していきたい。また、地域展開となった場合においても、活動する生徒や保護者の負担が

つぶやき…

国は、令和8年から10年度の間に、原則すべての学校で、休日の部活動を地域で行うことを目指すとされているが、大丈夫か。



荒生 博一 議員



上富良野中学校吹奏楽部 (R7年11月)

鈴木教育長

教育委員会

過大にならないよう、新たな制度構築の上で、費用負担の在り方も検討していかなければならない課題と認識している。  
荒生議員 費用負担の在り方についての検討は、現在は待ったなしの状況かと私は強く感じている。一日も早い制度の構築が求められるが、  
鈴木教育長 組織の中で学校教育だけではなく、少年団を抱える社会教育にとってもこれは町の子どもたちの健全育成を進める大事な重要案件である。教育委員会が総力を挙げて、学校と保護者と連携し、その対応に向けて検討を構築していく。

上富良野高校の支援策

荒生議員

「高校の授業料無償化」は、あくまでも授業料に対して補助金が出るもので、授業料以外に必要な入学金や交通費などは、これまでどおり保護者負担となる。今後は私立高校も生徒確保のために学校ごとのさらなる特色を打ち出して、ことが予測される。教育長は令和8年度以降、上富良野高校の新たな支援策を検討しているのか。  
鈴木教育長 これまでも高校で使用するタブレット購入費を含む入学準備金就学支援金、通学費の補助に加え、各種資格取得に係る検定料、さらには学校給食の提供など、

ほかにはない手厚い支援を継続している。令和8年度以降についても、現在実施している支援を継続するとともに、今後学校や保護者、上富良野高等学校教育振興会と連携し、単に金銭的な支援を拡充するのではなく、より効果的で最適な支援の在り方について検討・協議を進めるとともに学校と連携し、地域資源を活用した特色ある教育プログラムの開発を支援すること、

「学びたい、通いたい」と思われる魅力ある学校づくりを後押ししていく。

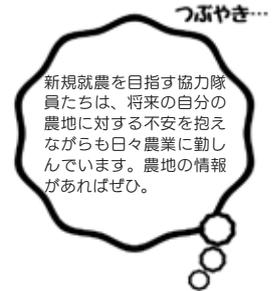
ひとくちメモ

今回の拡充で私立高校の支援額が手厚くなるため、進学先を選ぶ上で、学費という大きな制約が取り払われることで、「より充実した教育環境」を求めて、私立高校への志願者が増加する可能性がある。

新規  
就農

離農と就農の時期のズレを解消する方策は

町長 – 難しい課題だが様々な面でサポートしていく



小林 啓太 議員



**小林議員** 農業者への経営継続や経営継承の意向調査の進捗は。

**斉藤町長** アンケート調査を実施し、離農や規模縮小の意向も確認している。営農の継続や規模縮小の時期は各経営体の判断となり、新規就農の同時期に農地を取得できないこともある。

**小林議員** その時期のズレこそが新規就農者の農地の確保を難しくしていると考えるが。

**斉藤町長** ズレが生じることは致し方ないが、それをどうするかが重要である。

**小林議員** 現時点でのズレを解消する具体的な策は。

**斉藤町長** 新規就農者に

**斉藤町長** 新規就農者に



新規就農を目指し農作業に勤しむ齋藤さん

関しては、賃貸であったり、その間農業法人で働くなどの方策もありその期間も農業に携わってもらうことが有効である。

**小林議員** 現在活動している地域おこし協力隊の農業支援員の営農見通しは。

**斉藤町長** (5組中) 2組が農地も含め見通しが立っているが、残りの隊員はまだまだ決まっていない。引き続き関係機関と協力し情報収集に努める。

**小林議員** 現在協力隊員と地元農業者の交流の場は十分に持たれているか。

**斉藤町長** 現状ゼロではないが、農業者に彼らの人となりを知ってもらえるような機会を作るよう努める。

**小林議員** 見通しが立つ

**小林議員** 離農地が発生しても新規就農者に取得の権利が来るまでに時間がかかり、早期に土地にアクセスできない現状がある。どのような条件を整えば新規就農者が早い段階で協議に参加できるようになるか。

**斉藤町長** 地域の改善組合で既存の農業者だけで

ひとくちメモ  
時期のズレとは、誰かが農業をやめるタイミングと、違う誰かが農業を始めようとするタイミングがかみ合わないこと。一般的に始めようとする人のことを新規就農者という。

ていない協力隊の営農地確保に対する町長の思いは。

**斉藤町長** 将来の農業、農地を守っていく上では、一定程度重要な存在である。様々な課題はあるが、制度を作ることだけが行政の仕事ではなく、行政指導や日頃の付き合いなども通してしっかりとサポートしていきたい。

**小林議員** 離農地が発生しても新規就農者に取得の権利が来るまでに時間がかかり、早期に土地にアクセスできない現状がある。どのような条件を整えば新規就農者が早い段階で協議に参加できるようになるか。

**斉藤町長** 地域の改善組合で既存の農業者だけで

は農地が守っていけないという状態になれば、地域や農業委員会なども言めて合意形成を進めていくものと思う。

**小林議員** そのために町が権限の範囲内で支援できることは何か。

**斉藤町長** 地域から新たな就農者の求めがあった際、すぐ応じられるようそれぞれの準備を進めておかなければならない。

**小林議員** 期間のズレを解消するため、一定期間農地をストックしておくような仕組みを町独自で検討できないか。

**斉藤町長** そういう仕組みについては理解するが、町として所有するのは難しく、その考えはない。

イン  
バウンド

# 民泊等に関わる問題への町の対応は

## 町長 - 町のルールを守ってもらう

**茶谷議員**

民泊や簡易宿所の増加、外資系による空き家の購入は町の活性化につながる一方、所有者が不明、管理が不十分といった声が町民から上がっている。

町内での民泊件数の把握状況、消防・保健所との連携について、どのようになっているか。

**斉藤町長** 民泊施設が大幅に増加しているのが現状。民泊施設の届出先及び監督官庁は北海道であり、町として直接的な指導監督を行う権限は有していないが、町の宿泊施設として、環境衛生や防災面などで対応が必要なお客には、関係各所と連携を図っていく。

**茶谷議員**

住民からの苦

つぶやき...

頃多くの町民から不安の声があがっている。問題の発生を防止するために住民会等へのガイドラインのようないかなるマニュアルが必要では？



全国的に話題となっている民泊等に関するトラブル

情及びそれに対する対応は。

**斉藤町長**

民泊運営者に対し、改善指導とその対策の要請、継続した現地確認作業と周辺住民からの情報提供の協力を依頼し、再発防止の徹底に努めている。

**茶谷議員** 災害時の対応については。

**斉藤町長**

避難の経路、泥流が流れてきたときの避難所等の情報、実態等を含めてしっかりと連携を図っていききたい。

**茶谷議員** 何よりも大事なものは、地域住民の安心。



茶谷 朋弘 議員

心・安全の部分が一番最優先だと思いが町から住民会、町内会に聞き取り調査を行い、その不安をどう解消していくのか、町からの説明や、ガイドラインというものが必須ではないか。

**斉藤町長**

地域住民の不安というものはあるかと思うが、ある特定の業種にあらじめ聞き取り調査をすることは、かえって町民の考えをミスリードしてしまうという意味で、民泊が悪だというようなことにつながるような行動をするのは難しいと考えている。ただ、不安を解消していくということ

は、誤解を生じさせないよう、町民の声に寄り添っていかねばならぬ。

**茶谷議員**

町が持続発展していくためには、町全体として受け入れ体制が必要だと思うが、町民から困っているという声も上がっている。民泊や簡易宿所、外資系の土地の購入が益々増えていくことが想定される中、どう対応していくのか。

**斉藤町長**

どういった業種の方が来ようとも、町のルールは守ってもらう。それをしっかりとすることが、住民の不安をある程度払拭するのに一番。問題解決の根本は、それに尽きるのではないかと思

っている。

ひとくちメモ

全国各地で民泊の増加や外資系の土地購入によって様々な問題が生じている中、町独自で条例を定めたガイドラインを作り、住民への周知を行っている自治体もある。

## 旭日単光章 受章



なかむら ありひで  
中村 有秀さん (88歳)

令和7年12月1日発令  
元町議会議員 (平成11年～平成27年)

## 議会の主な予定

- 2月12日 全員協議会  
厚生文教常任委員会  
総務産建常任委員会
- 2月16日 厚生文教常任委員会
- 2月19日 総務産建常任委員会
- 2月24日 議会運営委員会
- 2月25日 全員協議会
- 3月3日 第1回定例会 (～6日、17日)
- 3月10日 予算特別委員会 (～13日)

## 次回4月24日発行予定

- 次号の注目!
- ・R8年予算特別委員会
  - ・町長や議員の給与が上がる!

## 今号の表紙

「提供ありがとうございます！」

フリーランスフォトグラファー

安彦 嘉浩さん

●自己紹介：こんにちは！安彦嘉浩です。普段はフリーランスフォトグラファーとして風景や動物や人物を撮影しています。2023年に移住してきて上富良野町民になりました。2025年末までは役場で勤務しながらフォトグラファーとしても活動する日々を送りました。所属していた企画商工観光課ではラウンダーフェスタなどのイベントを担当してきましたが、もっとも自分の感性に素直に活動したいと思い2026年からフォトグラファーとして独立しました。自分の活動の結果として、この町の持続的な発展に繋がるといいなと思っています。

●議会に対して一言：議会に対しては、町を支えている現役の世代が取り残されないような働きかけを期待しています。日々仕事に励み、納税を通じて町に貢献している世帯が、今後この町で暮らすことに前向きな魅力を感じられるような、バランスの取れた施策を検討していただければと思います。現役世代、課税世帯から豊かになる仕組みづくりを願っています。



ジェットコースターの路付近で撮影

## 編集後記

新年あけましておめでとございませう。議会だよりを読まれるときには、この言葉は遅い感がありますが、年4回発行のためご理解ください。早いもので新しい年になり1カ月が過ぎました。今年は、明治30年の上富良野の開拓の轍が降ろされてから129年、大正15年の十勝岳爆発から100年の時が経つ年でもあります。先人の労苦は計り知れず、これからの100年が、私達の肩にかかっているかと考えると身の引き締まる思いがあります。1月23日、通常国会冒頭で衆議院を解散すると総理が記者会見しました。理由はいろいろ述べられていましたが、時折原稿を見るために下を向く以外は、正面を向いて毅然とした態度で説明する姿勢に、今までにない政治家としての力強さを感じたのは、私だけでしょうか。いづれにしても、私達の暮らしが良くなる政策の実現を願うばかりです。2026年、町民皆様のご健勝をご祈念しております。

(林 記)

## 議会広報特別委員会

委員長	茶谷 朋弘
副委員長	林 敬永
委員	湯川 千悦子
	米澤 義英
	井村 悦丈
	小林 啓太

発行／上富良野町議会

編集／議会広報特別委員会